

2006年(平成18年)11月6日

(昭和29年2月9日)
第三種郵便物認可

国際水協会世界会議・展示会
IWA北京会議短信

その1

グローバルウォーター・ジャパン代表
吉村 和就

日本では日本水道協会の体から公表されているが、「水道事業ガイドライン」数値での努力目標は求めらる業務指標(PI)を用いていない。しかし、世界に50以上の国内事業の動きは、その数値化され



IWA北京会議の展示会での吉村氏

戦略的なアセットマネジメント、
ベンチマーキングと業務指標(PI)

大きな舵取りをしている実態が北京会議で示された。第1日(9月11日、9時15分~19時まで)、IWAのPI指針作成の責任者であるパレンシア工科大学のキャブレラ教授が議長で、現在世界中で実施および試行されているPIについて特別ワークショップが開催された。午後のセッションでは議

された。午前中のセッションでは、業務指標活用の効果について途上国および先進国より報告があり熱心に討議が行われた。世界的な動向はホルトカルのヘレナ・アレクシウス(ISO/TC 224でも中心的な役割を果たしている論客の一人)のフロイデス氏よりこのIWAシステムは、EUの上水道の普及のためには、PIが必要であり、今後のPI普及の戦略として「世界の上下水道の普及のためには、PIが必要であり、現在個別に使われている指標の統一やBM普及組織間の統合が呼びかけられ、①北欧グループ(デンマーク、フィンランド、ノルウェー、スウェーデン、オランダ)②オーストラリア・米国のニュージラランドグループ③IWA④世界銀行グループの参加者により満場一致で了承された。これにより世界的なPIの議長が説明、その後世界銀行、メキシコ(すでに300都市で試行中)、ウガンダ(国として活用中)、8年ウィーン総会で発表さ